



Top Runner Interview Project 2011

<http://uceenet.jp/uceenet/codb2/index.php>

Top Runner Interview Projectとは

「次世代のTop Runner育成」を目的としたプロジェクト。異なる大学のメンバーから成る少人数のグループでTop Runnerを訪問し、直接ディスカッションを行うことでトップランナーの理念である「Top Runner Ship」を学ぶ。

東京工業大学

工学部化学工学科4年 猪瀬優

お茶の水女子大学

文教育学部人間社会科学科4年 伊藤紘子

本年度の活動

訪問に向けた準備(約4カ月)

- ・派遣者の採用選考
- ・アポイントメント・コンタクト
- ・渡航計画・予算見積もり

現地訪問

- ・Top Runner のインタビュー
及びディスカッション
- ・施設の訪問

訪問後

- ・報告書の作成
- ・報告会やウェブでの
活動報告

Top Runners

Yoriko Kishimoto氏

日本生まれ。日米を繋ぐコンサルタント会社の創業に携わり、パロアルト市長も務めたことのある女性。様々なバックグラウンドを活かした多角的なモノの見方で問題

解決に取り組む。



1日目:インタビュー

日系人女性というマイノリティでありながら市長になるまでのライフコースの選択について。Palo Alto City Councilの訪問(下図)。

2日目:ディスカッション

Yoriko氏が特に力を入れて取り組んでいるエネルギー・環境問題(特にGreen Economy)について意見交換。



Esther Wojcicki氏

元ジャーナリストであり、現在はパロアルト高校でジャーナリズムを教える教師として活躍。彼女が教えるジャーナリズムのクラスは、生徒たちが自ら企画、取材、執筆、編集、広報活動など実際に新聞や雑誌を発行する際に必要とされるほとんどの作業をグループワークで行うものであり、非常に実学的で人気が高い。



本インタビューではアメリカのジャーナリズム教育の実情や、Wojcicki氏の教育理念を伺った。



Enid Pearson氏

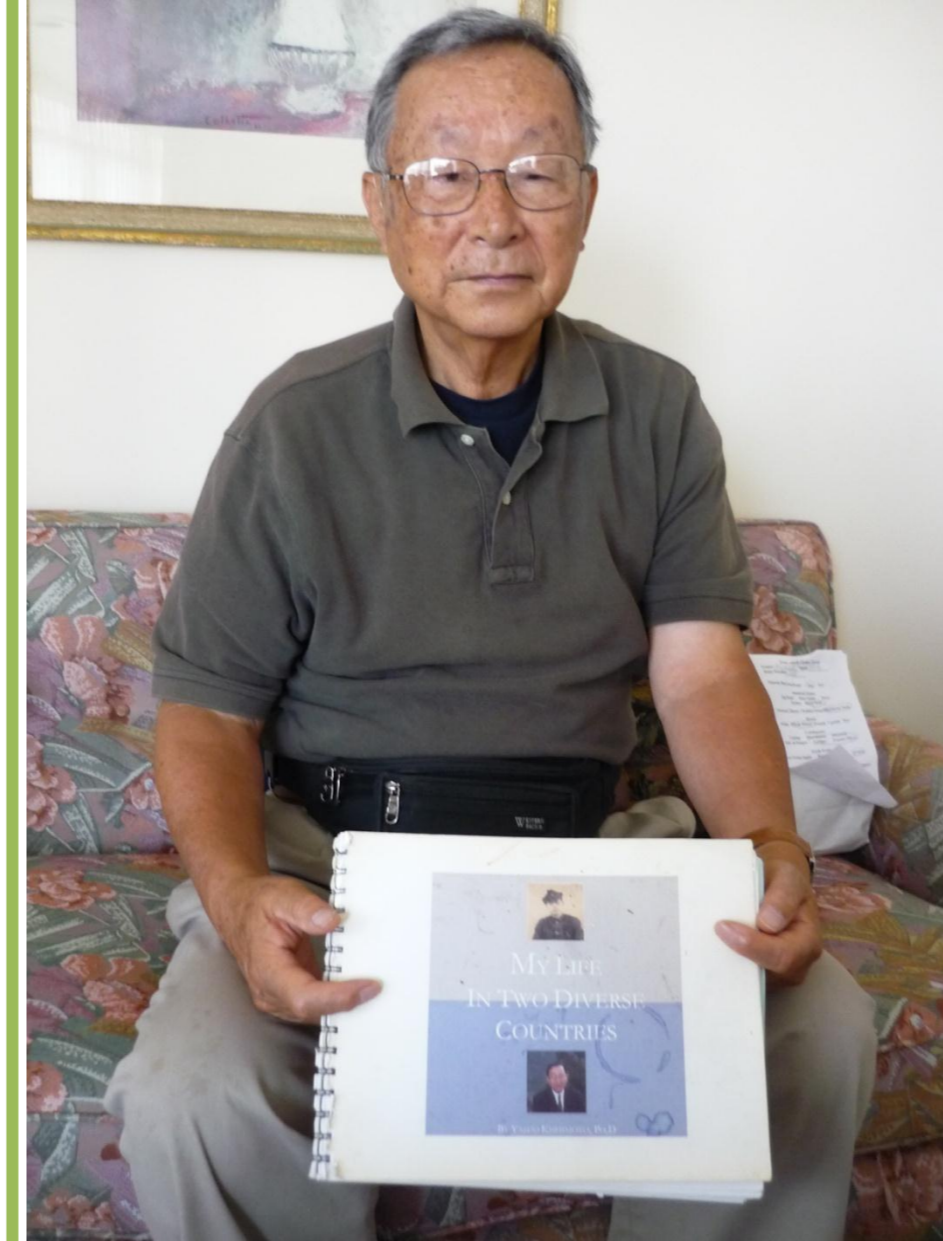


大学で化学の修士号を取得し研究者として働いていたが、女性差別や子育てとの両立から研究者を辞める。やがて街開発が盛んであったPalo Alto市に移り住んだ際に、自然豊かな街がむやみに開発されることに反感を持ち始め市議会の監視役となり、その後自ら市議会議員として問題解決に取り組むという経緯を持つ元政治家。



他にも仲間と起業するなど精力的にさまざまな活動に取り組んでこられたPearson氏だが、女性として多くの差別を受け、理不尽な批判を受けながらも闘いぬいてきたその生き様を語ってくださった。

Yasuo Kishimoto氏



京都大学で薬学のPh.D取得University of Michigan Medical SchoolやHarvard Medical Schoolで生化学の研究員を勤め、Johns Hopkins University, University of California-San Diegoで脳神経学教授を勤めた。引退後は絵画制作に取り組んでおり、この9月には個展も開かれた。

実績さえあればやりたい研究ができるというスタンスに惹かれアメリカに渡ったYasuo氏。アメリカ留学を考える理系学生へのアドバイスを頂いた。

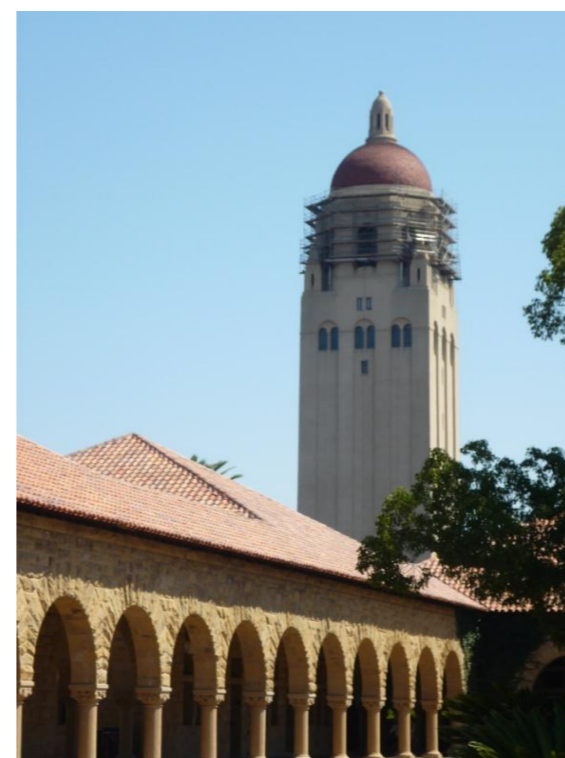


Palo Alto city in California

シリコンバレーの北部に位置する都市。ヒューレット・パカードやフェイスブックの本社などの複数のハイテク企業の本拠地として知られる。



宿泊:Channing House (自立型高齢者住宅)



Palo Alto 市はStanford大学の敷地に隣接している



サンフランシスコ名物のケーブルカーに乗車



サンフランシスコ観光名所 Golden Gate Bridgeにて

UCEE NETとは

複数大学の学生と企業をつなぎ、科学技術創造立国の中核となる人材と組織・企業を幅広く支持するNPO法人です。SNS機能付き人材データベース(<http://uceenet.jp/>)を利用して大学や専門の垣根を越えた人材・技術交流を行っています。

UCEE: University Coalition on Engineering Education